



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

2006年1月1日発行 第43号 発行・横浜スペイン協会事務局

年頭のご挨拶

会長 下山 貞明

2006年の新春を迎え皆様のご多幸をお祈り申し上げます。会員の皆様には、平素当協会の事業推進にあたりご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年度は、創立15周年を迎え一つ一つの記念事業が、関係機関のご支援と各記念事業実行委員の皆様方の多大なご努力により、盛大に開催することができました。

今回は、特に北は北海道から南は九州まで、九つのスペイン友好団体のご参加をいただき、共にスペイン国との友好を末永く継続し日本との文化交流のために努力するとの「横浜宣言」が採択されましたことは、誠に喜ばしい限りでした。今後当協会として全国のスペイン友好団体との密接な相互交流を深めてまいりたいと思います。



本年度は、創立15周年を契機として会員相互のふれあいを大切にしながら、新たな課題にむけて幅広い活動を展開していくために、将来構想を策定すべく「ビジョン委員会」を設置し、当協会のさらなる発展と日西交流のためにつくしてまいりたいと考えておりますので、よろしくご協力を賜りたくお願い申し上げます。

皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、年頭の挨拶といたします。

万博と志摩スペイン村訪問

2005年9月8日から1泊で、「愛・地球博」(万博)と志摩スペイン村へ親睦旅行をしました。参加者は14名でした。

志摩スペイン村の林光宏氏が新横浜駅から同行、万博会場には交通混雑のため予定より1時間半ほど遅れて到着しました。スペイン館では、昼食に特別の計らいをしてくださったのですが、時間に間に合わず昼食抜きということになってしまいました。それでも館内を一通り案内いただき、参加者一同満足して、同館を後にしました。

志摩スペイン村に到着の折には、志摩スペイン村の丸山隆司社長を初め、岡山孝次取締役、仲村美信支配人、さらに関西日本スペイン協会の中村尚徳運営委員長のお出迎えを受けました。大変感激しました。また、贅沢な部屋の作りと眺望、豪華なディナー、自前の源泉を使った風呂など、感激の連続でした。

ホテルの中は南国風のゆったりとした作りで、中庭も広く取っており、スペインにいる感じそのものです。バルケ・エスパーニャではスペイン人のガイドが「吉本」ばりのユーモアを交えての案内。スペイン人による本場の「フラメンコ」を鑑賞。昼食は特別に用意してくれた会席料理を賞味しました。

天候にも恵まれ、志摩スペイン村の方々の暖かいご好意とおもてなしで、満足一杯の旅ができました。



▲バルケ・エスパーニャのザビエル城を背に

***** スペイン・サロンへのお誘い *****

●2006年1月のスペイン・サロンは新年会で

2006年の新年会は会員同士の親睦に重きを置いて、堂ヶ島温泉ホテルで開催いたします。これに合わせ1月のスペイン・サロンは、新年会プログラムの一つとして以下の内容で行います。

日 時：2006年1月21日（土）15:15～16:45

場 所：堂ヶ島温泉ホテル 静岡県加茂郡西伊豆町堂ヶ島 TEL 0558-52-0275

テーマ：「ドン・キホーテ（前編）」出版400年を迎えた2005年、新たな翻訳本全4巻を堀越千秋氏の挿し絵入りで、新潮社より出版された荻内勝之氏によるドン・キホーテ物語です。

講 師：荻内勝之氏 神戸外国語大学大学院イスパニア学研究科修士課程修了。関西学院大学講師を経て、東京経済大学コミュニケーション学部教授。主な著書・訳書：「ドン・キホーテの食卓」（新潮社）「スペイン・ラブソディ」（主婦の友社）「おっ父たんが行く」（福音館）「スペイン歴史と文化」（共著、新潮社）「ペルシーレス」（セルバンテス 翻訳、新潮社）「豚の戦記」（ビオイカサレス 翻訳、集英社）「ドン・キホーテ」（セルバンテス 翻訳、新潮社）。

参加費：13,500円（1泊2食、税・サービス込み）

☎ 問合せ先：山崎宗城

音楽とともにスペイン・サロン

●10月のスペイン・サロン・スペシャル “TATUAJEを歌う”

音楽サロンとの共催でスペイン・サロン・スペシャルとして、とてもユニークな音楽コンサートを開催しました。

当協会会員の石井三栄子さん（ボーカル）・岩崎良子さん（ジャズピアノ）を中心に、特別出演の高木潤一（フラメンコギター）・小林潤市（ベース）・長岡敬二郎（パーカッション）によるオリジナル ガルシア・ロルカの歌曲で始まったコンサートは3曲目に「シマンカス組曲」（初演）が紹介されました。この曲は当協会副会長の飯塚勲さんがスペインのシマンカスを訪れた時に想を得てモチーフを作曲し、ピアニストの岩崎さんが一つの曲にまとめた詩情溢れる曲でした。



▲熱演 “Tatuajeを歌う”

続いて本邦初演のTATUAJE（刺青）は20世紀前半に、スペイン歌謡の作曲家として活躍されたマヌエル・キローガの曲を、会員の飯田京子さんと飯塚さんが日本語の歌詞に訳し、ボーカルの石井さんと共に完成させ、刺青に示された男女の愛を歌ったものです。

休憩を挟んだ後半のプログラムは趣を変えた武満徹作曲の日本の歌・反戦の歌・スペインの歌、最後は「アランフェス協奏曲」のメロディーをイントロに入れたフラメンコ ジャズの演奏と、グラナダのジプシー的歌曲ソロで終わりました。アンコールに応え、先頃アメリカ南部を襲い大被害をもたらしたハリケーンの救済募金を呼びかけ、テネシー・ワルツとエル・ビートが演奏され当日の幕を降ろしました。（山崎宗城）

●11月のスペイン・サロン「ザビエルの時代と音楽」

今谷和徳氏：慶應義塾大学、桐朋学園大学、共立女子大学、東京藝術大学講師

1549年8月15日、イエズス会の宣教師として、その第一歩を鹿児島に印したフランシスコ・ザビエルが生誕して500年を迎える2006年を間近にして、フランシスコ・ザビエルの足跡を追いながら、彼が生きた時代の音楽を検証するものでした。

1506年4月7日フランシスコ・ザビエルは、カステーリャとアラゴン2国に挟まれたナバラ王国のハビエル城で生まれました（1504年イサベル女王没、1506年フェリペ1世没）、そこで同時代の音楽として、アラゴン・カステーリャ王女ファナの宮廷音楽家ファン・デ・アンチエータ（1462～1523）のスペイン歌曲「お母さん、2羽のアヒルが通ってゆく」（王宮の歌曲集から）を聴きました。

ザビエルの故国ナバラは、1512年フランスとアラゴンの戦争でフランス側につき、7月首都パンプローナは



▲音楽も使いながら講演する
今谷和徳氏

アラゴン軍に占領されます。ナバラ王はフランスに亡命、さらに1521年のフランス（フランソワ1世）とスペイン（カール5世）のパンプローナの戦いではザビエルの2人の兄はフランス側で戦います。この時代の音楽として、フランソワ1世の宮廷音楽家クロード・ド・セルミジの「青春時代に生きている限り」を聴きました。

1534年8月15日、ロヨラを中心にザビエルを含めた7人の同士は、パリのモンマルトルの小聖堂で誓願、イエズス会を結成します。この時代パリの出版業者ピエール・アテニャンは楽譜出版活動を開始します。そこでこのころの音楽として、アテニャン版の1530年「舞曲集」から「パヴァーヌ」「ガイヤルド」を聴きました。またセルミジ作曲の「われ、よみがえり」も聴きました。

1536年、ザビエル達はパリを去りヴェネツアへ向かいます。

ヴェネツアでは、パリよりも早く1501年には楽譜出版がスタートしていました。ザビエル達はヴェネツア滞在中に、サン・マルコ大聖堂で当時の楽長アドリアン・ヴィラートの音楽に耳を傾けたことでしょう。講演ではここで1542年に出版されたヴィラートの「めでたし乙女、神の花嫁」を聴きました。

1538年、ザビエル達はローマに行き、教皇パウルス3世に謁見します。このころの音楽として、教皇パウルス3世時代の教皇庁聖歌隊歌手でもあったクリストバル・デ・モラレスの曲「全ての国々よ、主に向かって歓呼せよ」を聴きました。この曲は1538年6月、フランスのニースでフランソワ1世とカルロス5世の間で和平の成立を祝って歌われたものです。

このように、フランシスコ・ザビエルの生涯に沿いながら、16世紀のヨーロッパ音楽を理解する印象深い講演でした。（山崎宗城）

***** 文化講座からのお知らせ *****

♪♪ 「スペイン音楽サロン」 へのお誘い ♪♪

♪スペイン中世の音楽をライブで聴いてみませんか？

「ジョングルール・ボン・ミュージシャン」という若い日本人からなる音楽集団が、スペイン中世の音楽のユニークなコンサートを開催します。ヨーロッパ中世に使われていた楽器を駆使し、中世ガリシア語の歌や吟遊詩人の歌などを演奏します。ご期待下さい。

日 時：2006年3月25日（土） 14：00～15：30 開場 13：30

場 所：ペーリックホール（横浜市中区山手町元町公園内）

参加費：1,000円（座席20席限定）

☎申込・問合せ先：安田秀之

・山崎宗城



たのしい「絵画教室」



絵を描くことが初めての方、またすでに多くの絵を描かれている方も、私たちと一緒に当協会会員の島津画伯の指導を受けながら、絵を描いてみませんか。

絵画教室では、旅先でのスケッチに役立つ手法をはじめ、いろいろな画材を用いて、自分の好きな絵を描くことができます。

今年は絵画教室が始まって3年になります。そこで、みんなでスペインへのスケッチ旅行を計画中です。絵を描かれない方の参加也大歓迎です（詳細は未定ですが、1ヵ所滞在型で、かなり自由行動のできるプランを計画しています）。

◆開催場所：島津画伯アトリエ（東海道線真鶴駅下車徒歩15分）

◆1月以降の開催予定日（原則として毎月第1土曜日午後1時30分より）

1月14日（土） 2月4日（土） 3月4日（土） 4月1日（土）

◆参加費：1回（1ヵ月）会員2,000円 一般2,500円

☎問合せ先：西川貞子

e-mailは、協会ホームページよりアクセスできます。

第4回スペイン料理を楽しむ会

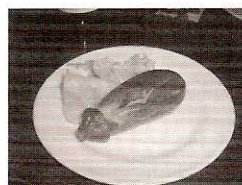
10月27日に当協会賛助会員のスペイン料理店“オリーブ”にてオーナーシェフ中村さんによる、物語ドン・キホーテ（El Ingenioso Hidalgo Don Quijote de la Mancha）に登場し著作者セルバンテス（Miguel de Cervantes Saavedra 1547～1616）も食したであろう名物料理（自己主張の強い肉達のコシード〈Cocido Manchego〉）を頂きました。お陰で彼の当時の食文化の片鱗を垣間見ることができました。舌鼓みを打ちながらの談論風発、あっという間の楽しいひと時を満喫しました。（岡田重男）



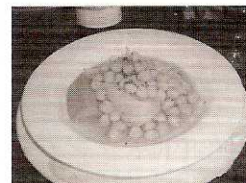
▲セルバンテスに思いをはせつつ



▲コシード



▲なすの酢漬け



▲ガルパンソスープ

私のスペイン

スペインは多様の国です。それぞれの人の思いも多様です。あなたの思いは何ですか？

—— 会員投稿 ——

私のスペイン

—— 辻 和也 ——

「六十の手習い」と、いいですが、ちょっとした気まぐれから始めたスペイン語が私の定年後の人生をどれほど楽しく豊かにしてくれたか計りしれません。

若い頃にヘミングウェイ原作の映画「誰がために鐘は鳴る」を見てゲーリー・クーパーとイングリッド・バーグマンによる恋愛映画と見過ごしましたが、後にその時代背景がスペイン内戦で「主人公のロバート・ジョーダンは、内乱によって自由と正義が脅かされるのを黙秘できず、義勇兵に身を投じスペイン内戦に生命を賭けたこと」「マリアは共和派の村長を父に持ったスペイン娘で、暴徒のために髪を刈りとられて陵辱されるが、ジプシーに救われロバートにひたむきな情熱を寄せる」という筋を知って（世界文学全集23巻、河出書房）自分の無知を思い知らされ、内戦関係の本を片っ端から読みました。私の読書ノートには、川成洋、斉藤孝、野々山真輝帆、石垣綾子、逢坂剛、ヴァノン・リチャーズ、ホアン・ソペーニャ等の著者名が記されています。

読書によって、スペインとスペイン人が分かったと問われれば、「群盲象を撫ぜる」の例えどおり、その一面に触れたに過ぎないのでは、と思っています。

—— 会員投稿 ——

シマンカス組曲の誕生

—— 飯塚 劭 ——

あれはもう、30年以上も前のことになる。

今は亡き清泉女子大学教授の佐久間正先生から、バジャドリッド近くにシマンカスという小さな町があり、そこに古文書館があるという話を伺った。そのころの私は、マスコミの第一線で働いており、まさに働き盛

りであった。それゆえ趣味として日西交渉史を、暇をみつけては調べてはいたが、とてもその地まで出かけ、ゆっくりと資料を漁る時間的な余裕など持てるはずもなかった。

それから10年ほどが経った。マスコミでの仕事は、神経をすり減らす。とてもまともな神経の持ち主では、長く続けていくことはできない。

仕事に疲れた私は、これから後は自分に残された時間を、自分のやりたいことをゆっくりこなしながら、ほどほど生活できるだけの仕事をやっていこうと決めた。

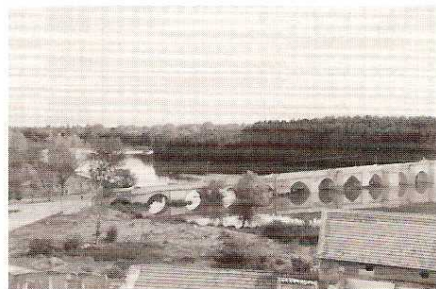
そこで趣味の日西交渉史の学習を少し進めてみようと思い立ち、しばらくの間スペインに住むことにした。スペインでは日本の歴史と関係のある土地をめぐり、その地の教会、役所、図書館などなど、資料を求めて歩いた。そして10年前、佐久間先生から伺っていたシマンカスの町に行った。



▲現在は古文書館になっているシマンカス城

その町は小高い丘の上にあり、その丘に家々がへばりつくように点在している。それは中世の町並みをそのまま残したところであった。町の中心部を目指して丘を登っていくと、小さな古城があった。それが目指す古文書館だった。

古城の前に立ちふと振り返ると、遠くにはイベリアの大地がひろがり、眼下にドウエロ川が、満々と水をたたえて流れていた。その美しさは筆舌に現せないものであり、日



▲シマンカスの村から見たドウエロ川

西交渉史の資料を求めてこの地へ来たことを忘れさせるものであった。そのとき、私の脳裏にふと浮かんだ数小節のメロディがあった。

それからさらに20余年が経った。曲がりなりにもシマンカスの町で浮かんだメロディがある形になった。幸運にも機会があって、それを披露できることになった。去る10月1日、かなつくホールで皆さんにお聴きいただいた「シマンカス組曲」のテーマである。

このコンサートが終わって数日後、シマンカス組曲を演奏してくれたピアニストの岩崎良子さんから、次のようなメールが届いた。「……高校時代の友人、教会関係の方など、40名以上の方が聞きにきてくださりもっと、いろんな方にお知らせしたいくらい楽しいコンサートでした、とっていただき感激です。朝一人の友人が、癌でもうじき亡くなる方にあのシマンカスを聞かせたい、と電話してきました。……」

あの小さな丘の上の町は、今も私が訪れた時と同じように静かなのだろうか。

会員投稿

スペイン・スペイン

橘川 万里子

近年、スペインの政治経済の変化は目まぐるしい。マドリードでの列車テロ事件は劇的政変をもたらし、経済成長に伴う移民受入れの増加は市民生活の有様にも影響を与えているようだ。一方、アルタミラ洞窟、ローマ時代の遺跡からサグラダ・ファミリアまで、数え切れないほどの文化遺産が、800年も続いたレコンキスタ、20世紀の市民戦争などの戦乱の時を経て、歴史の証人として、また多くのものが現在もその機能を果たしながら、存在している。

数十年前、はじめて目にして圧倒された石の文化。その一つ一つが歴史の一時期に私達を引きもどす。そして、あの大地から生まれた数多くの天才達。現在では、映像の世界での若者の活躍もめざましい。うつろいゆく時代、でも、豊かな文化はいつまでも忘れられることはないだろう。スペインの文化の奥の深さは、はかり知れなく、いつまでも私を魅了し続けるに違いない。

▶▶▶ スペイン語教室だより ◀◀◀

エミリオ先生の帰国に伴い2005年後期から新しい先生をお迎えして、継続して下記の通り開講しています。「アマポーラ」に高柳先生が復帰され、「アセスナ」と「カメリア」（2006年1月より）にはベアトリス先生、「ロサ」にラケル先生をそれぞれ講師としてお迎えいたしました。ベアトリス先生、ラケル先生はともに

若いですが、他でもスペイン語を教えていらっしゃる、日本語もとても堪能です。「ロメロ」・「マルガリータ」・「ヒラソル」「クラベル」はジョアン先生、「ビオレタ」は橘川先生、「マグノリア」（「セレス」改め）・「新聞・雑誌を読む会」は栗山先生が今までどおり講師としてご指導くださいます。空席があれば、中途からでも受講できますので、下記担当までご連絡の上見学することをお勧めいたします。

教室名	レベル*	回数	曜日**	授業時間
ロメロ	中級（作文・会話）	月3回	月曜日	10：30～12：00
アマポーラ	初級-I	月3回	月曜日	10：30～12：00
マルガリータ	初級-II	月3回	月曜日	13：15～14：45
カメリア	初級-II	月3回	月曜日	13：00～14：30
アスセナ	中級	月3回	月曜日	14：45～16：15
ビオレタ	初級-III	月3回	水曜日	10：30～12：00
ヒラソル	中級（作文・会話）	月3回	水曜日	10：30～12：00
クラベル	初級-III	月3回	水曜日	13：15～14：45
ロサ	入門	月3回	水曜日	13：15～14：45
マグノリア	中級（文法・会話）	月3回	土曜日	10：30～12：00
新聞・雑誌を読む会	上級	月1回	第4土曜日	10：15～11：45

* 授業のレベル、教科書等については見学した教室でお訊ね下さい。

** 原則として、毎月、第1、第2、第3のそれぞれの曜日です。

会 場：月・水曜日：かながわ県民活動サポートセンター 7階

横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2（「横浜駅」西口徒歩5分）

土曜日： 万国橋会議センター

横浜市中区海岸通4-23（MM線「馬車道駅」徒歩5分）

受講料：1回1,000円（10人未満の教室は1,500円）

「新聞・雑誌を読む会」のみ1回2,000円

会員以外は上記に半期毎2,000円を加算。

受講料は半年分を前納（一旦納入された受講料は返却致しません）。

学 期：前期 4月～9月（8月は夏休み）5ヵ月（全15回）

後期 10月～3月 6ヵ月（全18回）

☎問合せ・申込先：スペイン語教室担当 廣瀬勝亮

***** 2006年スペインの祝祭日 *****

1. スペイン全国の祝日

1月 1日※新年

(AÑO NUEVO)

1月 6日 主顕節の日

(EPIFANIA DEL SEÑOR)

4月13日 聖木曜日

(JUEVES SANTO)

*カタルーニャ地方等は17日月曜（イースターマンデー）が祝日

4月14日 聖金曜日

(VIERNES SANTO)

5月 1日 メーデー

(FIESTA DEL TRABAJO)

8月15日 聖母被昇天祭

(ASUNCIÓN DE LA VIRGEN)

10月12日 イスパニアデー

(FIESTA NACIONAL DE ESPAÑA)

11月 1日 諸聖人の日

(TODOS LOS SANTOS)

12月 6日 憲法の日

(DÍA DE LA CONSTITUCIÓN ESPAÑOLA)

12月 8日 無原罪聖マリアの日 (INMACULADA CONCEPCIÓN)
 12月25日 クリスマス (NAVIDAD)

注意：※のついた 1月1日は日曜にあたり振替休日は各自治州単位で決められます。翌日を振替にする自治州と全く違う日を祝日にあてる自治州があります。

2. 自治州の祝日・ローカルホリデー

現時点では全ての自治州の振替休日及びローカルホリデーが発表になっておりませんので、マドリード・バルセローナの祝日のみ掲載いたします。上記に加えられる祝日は下記の通りです。

マドリード 3月20日 (サン・ホセの日の振替休日)ーマドリード自治州全域
 5月 2日 (マドリード自治州の祝日) マドリード自治州全域
 5月15日 (サン・イシドロの日) ーマドリード市のみ
 11月 9日 (聖母アルムデナの日) ーマドリード市のみ

バルセローナ 6月 5日 (聖霊降臨祭) ーバルセローナ市のみ
 6月24日 (サン・フアンの日) ーカタルーニャ自治州全域
 9月11日 (振替休日) ーカタルーニャ自治州全域
 9月23日 (聖母メルセドの日) ーバルセローナ市のみ
 12月26日 (聖エステバンの日) ーカタルーニャ自治州全域

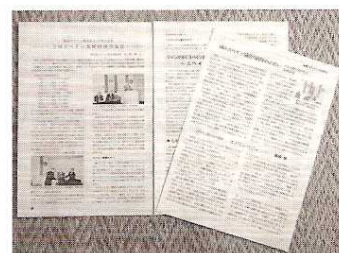
(スペイン政府観光局資料より)

***** INFORMACIÓN *****

●協会15周年記念行事、参加3団体が会報で紹介

昨年6月24日、当協会創立15周年イベントが横浜「みなとみらい地区」において開催されたことは、会員各位の記憶に新しいと思います。このイベントに参加して下さった「鹿児島スペイン協会」と「函館スペイン倶楽部」「日本・カタルーニャ友好親善協会」の3団体が、それぞれの会報にこのイベントについて詳細に紹介してくれました。

写真左の見開き構成は、鹿児島スペイン協会会報。写真右の1ページ構成のものは、「函館スペイン倶楽部」の会報ですが、鹿児島スペイン協会会報は、事務局長の吉留勝之氏が、そして函館スペイン倶楽部会報は世話人の加納諄治氏が執筆してくださいました。



▲協会15周年記念行事の紹介記事

●西丸與一特別理事「瑞宝中綬章」を受ける

昨年秋の叙勲で、西丸特別理事が瑞宝中綬章(ずいほうちゅうじゅしょう)を受けられました。瑞宝章とは長年にわたり公務等に従事し、功績を挙げられた方に与えられる勲章です。ご存知のように、西丸特別理事は、長年にわたって法医学の研究、教育、鑑定の実務に活躍されました。この度の叙勲は、教育研究功労の分野での授賞となりました。

西丸特別理事おめでとうございます。

ー賛助会員各社の会員サービス内容ー

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛 助 会 員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオーブ	横浜市中区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅(東京) 徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
(有)フレア	横浜市神奈川区西神奈川1-6-1 サクラビル701	045-321-5638	押し花材料代10%割引
日西商事(うさぎのいる島)	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料

//////////////// 新入会員紹介 //////////////////

吉野 裕仁 (Yasuhito Yoshino)

東京都港区 2005年10月20日入会

信頼と自信そして結束、そんなスペインが大好きです。スペイン大好きな日本の方、スペインの方と楽しく交流したいと願っております。あの真っ青なスペインの空、あんな晴れ晴れとした気持ちで生活ができれば、そんなことを考えております。

ヴィラ・ヴィニャス・ラケル (Raquel Vila Viñas)

東京都北区 2005年11月5日入会

Estimados compañeros:

Es un honor para mí entrar a formar parte de esta asociación. El exilio, aunque sea por voluntad propia, siempre es más llevadero cuando uno se encuentra rodeado de buenos amigos. Gracias ya de antemano. よろしくお願ひします。

ベアトリス・プリエト・ムニョス (Beatriz Prieto Muñoz)

東京都目黒区 2005年11月14日入会

初めまして。スペインのバジャドリッドから来ましたベアトリス・プリエトです。日本に来て3年以上になりますが、スペインにはもう6年間も帰っていません。ですから、スペインとの接点が少なくなっていました。この度、横浜スペイン協会でスペイン語を教える機会をいただき、とても喜んでおります。会員の皆様との交流を通してスペインとの接点を取り戻したいと思ひます。宜しくお願ひ致します。

前嶋 伸次 (Shinji Maejima)

藤沢市 2005年11月14日入会

スペイン語との関わりは大学で習得したスペイン語でした。大学4年生の時にスペイン、フランス、ポルトガルに2か月旅行し、なかでもスペイン滞在は1か月と2週間に及びました。そこでスペインという国の魅力を感じ、大学を卒業して以来、東京の信濃町にあるスペイン協会に入会していました。そしてこの度、横浜スペイン協会に入会することにしました。

***** 事務局からのお願い *****

2006年度は役員改選の年にあたります。今後の協会の運営に直接携わって下さる方を、自薦・他薦を問わず受け付けます。簡単な推薦理由をご記名の上、ファックス、郵便、あるいはe-mailで事務局にお送りください。締め切りは2006年1月31日です。

同時に、役員選考に携わる委員も若干名募ります。但し、自薦した人はこれには応募できません。同じく事務局までお申し出下さい。事務局連絡先はスペイン語教室だより欄を参照して下さい。

＜編集後記＞ 昨年は15周年記念行事をはじめとしてエネルギッシュな1年でした。多くの会員が参加し、成功に導いたことは協会のみならず個々の会員の協会活動に対する自信にもなったことと思ひます。本年は役員の改選があります。またビジョン委員会も設置されました。この「自信」を基に来るべき協会の姿にご意見を願ひます。そしてAIYES通信もよろしくお願ひします。(鈴木生雄)

編集委員 渡邊昭夫 澤田眞人 鈴木生雄 高柳治子 寺原瑛子 廣瀬勝亮 牧瀬 貢 宮崎紗伎 村田 誠 飯塚 勲

* 投稿寄稿宛先 横浜市戸塚区
横浜スペイン協会会報係
横浜スペイン協会URL <http://www.yokohama-spain.org>

次号の原稿締切は
3月11日(土)です。
投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。